

## T23b 近～中距離銀河団における Ia 型超新星サーベイ観測 (III)

山岡均 (九大理)、茂山俊和、土居守、安田直樹 (東大理)、渡邊大 (国立天文台)、渡邊真吾、鳥居善光 (九大理)、ほかプロジェクト参加各天文台メンバー\*

1996 年秋季年会で紹介した「近～中距離銀河団における Ia 型超新星サーベイ観測 (II)」(T19b) プロジェクトのその後の進展について報告する。プロジェクト名を SNOW (SuperNova Observing Web) Project と名付けたので、今後はこの名前と呼ぶことにする。

観測は、各天文台別に割り振った銀河団中心付近の視野 6 つ程度 /1 天文台を、*R* バンド 15 分積分で 1 週間程度おきに行ない、前回までの画像と比較して新天体を見いだすという方法で行なう。今冬より、7 つの公開天文台で本観測が始まった。さらに、新規に参加していただける天文台についてテスト観測を行なっている。モニター対象視野を詳しく調べた結果、観測対象として好適な視野の数が当初の見積もりより多いことがわかった。参加天文台数に比例して超新星発見数の期待値が上がるため、参加していただける天文台を今後とも募集していく。

SNOW プロジェクトの最大の目的は、楕円銀河における超新星出現率を知ることであるが、このためにはモニター期間で欠測がないことが重要である。日本国内では、天候の不順等の理由で継続観測が難しいことが危ぶまれるが、これを埋めるために、各天文台が相互に補完することとした。このためには、すべての天文台が現在どの銀河団をモニターしているか、前回の観測はいつであったかの情報を、各天文台がリアルタイムで入手できる環境が必要である。そのためのひとつの手段として、SNOW プロジェクトホームページを開設した。正式公開は 3 月ころを見込んでいる。プロジェクトの意義や解説等も盛り込んであるので、<http://www.netwave.or.jp/~yfujita/snow.html> を見ていただければ幸いである。

講演では、これに加えて、3 月までの観測状況について紹介する予定である。

\* 参加天文台 / メンバー代表 : 美星天文台 / 綾仁一哉、みさと天文台 / 尾久土正己、久万高原天体観測館 / 藤田康英、綾部市天文館 / 山本道成、かわべ天文公園 / 矢治健太郎、佐治天文台 / 宮本敦、西はりま天文台 / 黒田武彦、姫路市星の子館 / 安田岳志